

2017年度(平成29年度)学校評価自己評価表

培遠中学校区	校番 12	福山市立 培遠中 学校
最終更新日	2018年(平成30年)2月1日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”	課題発見・解決力、論理的思考力、コミュニケーション力、実践力(高い奉仕の精神)
<ul style="list-style-type: none"> 小中9年間で子どもたちを育てて欲しい。 地域と協力し、地域の行事等に積極的に参加していただきたい。地域とかわりをさらに深め、地域交流会等の取組を継続して実施してください。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本学力については、ほぼ定着しつつあるが、思考力・表現力、学習習慣の定着に課題がある。 奉仕的活動への参加意欲は高まっているが、自己効力感が低い。 	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	<ul style="list-style-type: none"> 自ら進んで学習する子ども 社会のルールやマナーを守って行動できる子ども 社会の一員として、進んで奉仕できる子ども
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律の徹底 ICT機器を有効に活用した授業づくり あいさつ運動の実施 地域貢献活動の実施

III 自校

ミッション	育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”	○課題発見・解決力 ○コミュニケーション力 ○論理的思考力 ○実践力(高い奉仕の精神)
知・徳・体の調和がとれ、自らの学校に誇りを持てる生徒を育てるとともに、地域・保護者との繋がりを深め、地域に愛され、信頼される学校教育の創造を目指す。	めざす子ども像	<ul style="list-style-type: none"> ○夢を志にチャレンジ(培遠精神&たんぼぼ魂)【課題発見・解決力、論理的思考力】 <ul style="list-style-type: none"> ・夢を持ち、自ら課題を見付け、その解決に向けて自ら考え、何事にも挑戦しようとする生徒 ○生活五訓(挨拶・時間・美化・服装・姿勢)【実践力】 <ul style="list-style-type: none"> ・当たり前をひたむきに取組む生徒 ○地域貢献【課題発見・解決力、実践力(高い奉仕の精神)】 <ul style="list-style-type: none"> ・地域を愛し、感謝の気持ちを忘れず、ボランティア活動や地域行事に積極的に参加する生徒 ○和衷協同【コミュニケーション力】 <ul style="list-style-type: none"> ・仲間を大切に、協働し共に伸びようとする生徒
学校教育目標	研究	教科等
たくましく生きる力を身に付け、自らの進路をきり拓き、地域に貢献できる生徒を育てる	主題・内容等	総合的な学習の時間
現状	めざす授業の姿	
<p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力調査等において、県平均を上回るなどの成果は見られるが、通過率30%未満の生徒の割合が高い。 ・あいさつに対する意識は高まっているが、自己効力感の低い生徒が少なくない。 ・小中連携や地域ボランティアへの参加によって地域からの評価が高まるとともに地域が好きと答える生徒が増えた。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎授業、生徒に「めあて」を示し、「めあて」と対応した「まとめ」「振り返り」を行うなど、授業スタイルの定着を図っている。 ・基礎学力を定着させていくために、全教科で「かく」活動を取り入れた授業に取り組んでいる。 ・主体的で対話的な学習を進めるために、ペアやグループ学習を授業に位置づけ、学習意欲や思考力・表現力の向上に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「自ら考え学ぶ」授業 <ul style="list-style-type: none"> ・単元のゴールを明確にした授業づくりを通して、関心意欲を引き出す[めあて]、分りやすくて確な「まとめ」、自分の言葉で書く「振り返り」を行う。 ・課題発見・解決型の授業を通して、生徒が主体的・対話的に活動し、グループ学習等の集団思考によって、基礎学力の定着と「深い学び」を目指した授業を行う。 	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 培遠中 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	70% 達成 評価	70% 達成 評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	70% 達成 評価	70% 達成 評価	総合 評価	改善方策
1	全国学力学習状況調査、基礎基本定着状況調査において通過率を全ての教科で国、県平均以上にする。	★	新規	授業の内容が分かると回答する生徒の割合を80%以上にする。	▽「まとめ(ゴール)」と対応した現実性のある「めあて」(課題)を設定する。 ▽単元の目標に迫るためのパフォーマンス課題を設定する ▽予習・復習に取組ませる。	△単元において、生徒が「なぜだろう」と思うような課題を設定(発問)し、資料等を活用して自分の考えを「書かせる」授業を行っている と回答する割合を80%以上にする。 △復習をしている生徒の割合を50%以上にする。	□自分の考えを「書かせる」授業を行っている と回答する割合 88.6% □復習をしている生徒の割合 67.8% □「全国学力」において国語、「基礎基本」において理科、「基礎基本」において理科、英語が県平均以上であった。	3	4	○生徒がワクワクするような「めあて」(課題)の工夫。 パフォーマンス課題の研修を行う。 ○ペア、グループ学習によって、学び合うことを徹底させる。	□自分の考えを「書かせる」授業を行っている と回答する割合 90.5% □復習をしている生徒の割合 69.5% ◎「全国学力」において国語、「基礎基本」において理科、英語が県平均以上であった。 ◎授業の内容はわかりやすいと回答する生徒の割合 80.7%	4	4	4	○生徒の「主体的」で「深い学び」のために、ICT機器を有効に活用した授業づくりを行う。 ○ねらいに基づいた「かく」活動によって思考力を育成する。 ○生徒がワクワクするような「めあて」(課題)の工夫。 パフォーマンス課題の研修を行う。
2	不登校生徒・30日以上欠席生徒を前年度比10%以上減少させる。		継続	自己肯定感について、生徒の肯定的回答を80%以上にする。	▽生徒会主催のあいさつ運動や地域の方と合同のあいさつ運動を実施する。 ▽班長会等を活用したリーダー育成と学級集団作りを努める。 ▽ボランティア年間計画を作成し、早めに周知するとともに生徒会主催のボランティア活動を月1回実施する。	△生徒アンケートで「自分には良いところがある」と答える生徒の割合を70%以上にする。 △生徒アンケートで「本音で相談できる人がいる」と答える生徒の割合を85%以上にする。 △掃除に真面目に取り組んでいると回答する生徒を70%以上にする	□「自分には良いところがある」と答える生徒の割合 64.7% □「本音で相談できる人がいる」と答える生徒の割合 79.0% □掃除に真面目に取り組んでいると回答する生徒の割合 80.6% □30日以上欠席者は、前年度比 ▲14%。	3	3	○毎月のあいさつ運動や地域への貢献活動を継続していく。 ○カウンセリング週間の実施。 ○掃除、チャイム席の強化週間等を設定し、焦点化した取組を継続して達成感を味わわせる。	□「自分には良いところがある」と答える生徒の割合 70.6% □「本音で相談できる人がいる」と答える生徒の割合 80.6% □掃除に真面目に取り組んでいると回答する生徒の割合 86.5% □30日以上欠席者は、前年度比▼14%	4	3	4	○毎月のあいさつ運動や地域への貢献活動を継続していく。 ○学活交流、班長会、委員会活動等を活用し、リーダーを中心とした学級集団づくりを行う。 ○生徒会、地域と連携したボランティア年間計画を作成し、全員参加を目指す。
1	新体力テストで県平均を上回る項目数を50以上とする。		新規	△新体力テストの県平均を上回る項目を30%以上にする。	▽常に目標値を意識するために掲示を行う。具体的なトレーニング方法を掲示する。 ▽体育の授業の補強運動で、計画的に弱点補強を徹底する。 ▽校区スタンダードを活用し、家庭との連携を図る。	△全学年、握力、立ち幅跳び、50m走を県平均以上にする。 △部活参加率を65%以上にする。 △朝食を食べてくる生徒を90%以上にする。	□全学年、握力、立ち幅跳び、50m走の県平均以上種目数 6/18(前年度比) □部活参加率 77.4% □朝食を食べてくる生徒の割合 87.9%	3	3	○体育の時間や部活で、瞬発力と筋力を高める補強運動や、校内一斉ランニング月間を継続し持久力を高める。 ○部活動一斉活動日や部活対抗を設け、部活動の活性化を図る。 ○保健だよりや掲示物、委員会を活用した啓発活動により、三点固定の取組を推進していく。	□全学年、握力、立ち幅跳び、50m走の県平均以上種目数 5/18 □部活参加率 89.4% □朝食を食べてくる生徒の割合 88.7%	4	3	4	○平均を下回った種目の再測定を実施するなど体力向上への関心・意欲の向上を図る。 ○部活習慣や部活デーを設定するなど、部活動の活性化を図る。 ○保健だよりや掲示物、委員会を活用した啓発活動により、三点固定の取組を推進していく。

3	地域・保護者の学校教育に対する満足度を90%以上にする。	継続	学校関係者評価会議での評価項目についてすべて◎評価にする。	▽培遠通信を月1回以上発信する。 ▽HPの定期的な更新を図る。 ▽地域の行事やボランティアへ参加させる。	△「子どもは学校生活に満足している」と回答する保護者の割合を90%以上にする。 △地域行事やボランティアに参加したことがあると答える生徒の割合を75%以上にする。	□「子どもは学校生活に満足している」と回答する保護者の割合 84.8%。 □地域行事やボランティアに参加したことがあると答える生徒の割合 78.3%	3	3	○継続して、保護者・地域へ学校の様子を発信していく。 ・培遠通信(学校だより)の発行 ・学校ホームページの更新(行事ごとに随時) ○生徒会を中心に地域行事や地域ボランティアへの参加活動を推進する。 ○OPTA活動の活性化を通して、保護者のつながりを密にする。	□「子どもは学校生活に満足している」と回答する保護者の割合 87.6%。 □地域行事やボランティアに参加したことがあると答える生徒の割合 68.6%	4	4	4	○ホームページや学校通信で情報を適時公開している割合が昨年度から10ポイント上がった。引き続き丁寧に保護者・地域へ情報を発信していく ○地域行事や地域ボランティアへの参加活動を推進する。 ○OPTA活動の活性化を通して、保護者のつながりを密にする。
---	------------------------------	----	-------------------------------	--	--	---	---	---	---	---	---	---	---	--